

「健康マイプランサイクル」の推進に向けた関係団体による取組等

(1) 日頃の健康チェック

(日頃から自身の体重や血圧などに関心を持ち、自己チェックをする。)

<各団体による取組>

対象者への働きかけ方の工夫

- ・産業保健推進センターでは、企業の産業保健スタッフ向け相談・情報提供、研修等を実施。
- ・労働基準監督署と健康福祉事務所が連携して、研修会やセミナーを開催。
- ・健康フェアや神戸マラソンのイベントにおいて、栄養相談を実施。
- ・普段から年に数度、口のチェックをすることを、病院で啓発。
- ・看護フェアにおいて、歯や口の健康相談コーナー設置や県民対象の研修を実施。

地域の中での効果的な事業展開について

- ・薬局を誰でも気安く健康相談ができる場所にするよう進めている。
- ・禁煙支援の研修を受けた薬剤師による禁煙指導を進めている。

<意見・提案、指摘事項等>

対象者への働きかけ方の工夫

- ・若い世代向けには、伝えたい情報はスマホ、ネットの活用をすることが効果的。
 - ・企業等は待ちの姿勢になっているので、支援の申込手順を明確にすることが必要。
 - ・周知にあたっては、会社のトップに繋がるところに情報を渡すのが大事
 - ・スポーツや芸術・文化の活動イベントに合わせて、啓発・PRを一緒に実施すると効果的
 - ・企業の現状について、事業所診断カルテ等、データを可視化して示すと効果的。
- 地域の中での効果的な事業展開について
- ・気軽に、身近に、楽しいという視点での事業の組み立てや、家族と一緒にした取組が必要。
 - ・商店街等の空き店舗でふれあい喫茶を開催し、健康相談に対応できる人が巡回するのは効果的。
 - ・普段の生活(区民まつりやショッピングセンター)の中に歯科のブースを設けられれば、県民も行きやすい。
 - ・他県では協会けんぽと県・市が連携協定を結び、医療費分析等を実施する例有り。

(4) 生活習慣の改善・定着

(専門家の指導等に沿って、運動や食事の改善などを行う。)

<意見・提案、指摘事項等>

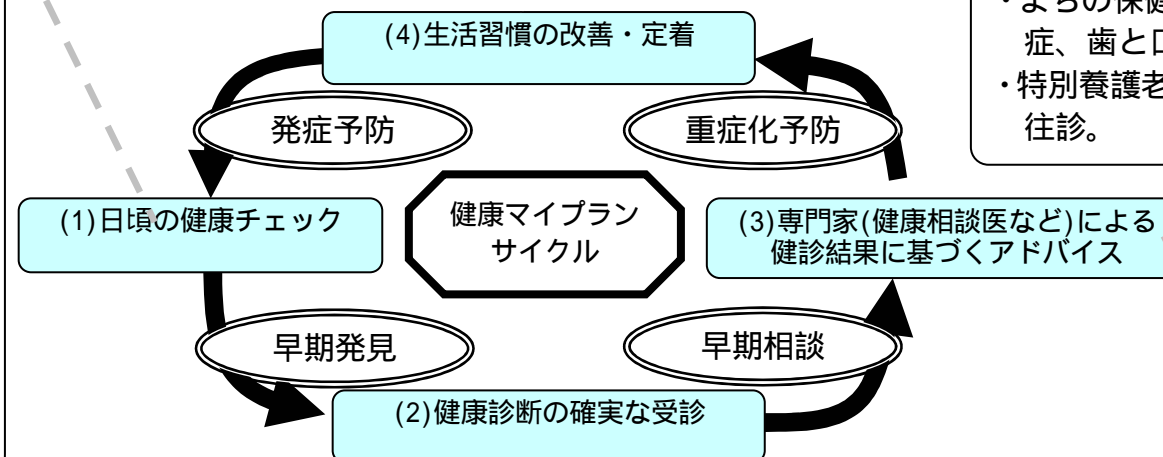
- ・生活習慣改善やワークスタイルに関わることは、産業保健スタッフだけでは手に負えないので、関係部署すべてが協力して実施する必要がある。
- ・生活習慣や食生活の改善は、実体験しないと難しいため、カロリー計算や節制等を体験できる機会が必要である。

(3) 専門家(健康づくり相談医など)による健診結果に基づくアドバイス

(健診結果に基づき、精密検査の受診や相談・診療を行う。)

<各団体による取組>

- ・栄養ケアステーションにおいて、特定保健指導の事後指導等を実施。
- ・まちの保健室を県内全域で展開し、健康相談(認知症、歯と口腔など)を実施。
- ・特別養護老人ホームには、歯科医師や歯科衛生士が往診。



(2) 健康診断の確実な受診(年1回の健康診査を必ず受ける。)

<各団体による取組>

対象者への働きかけ方の工夫

- ・歯科医師会と協会けんぽが連携して、事業所歯科検診の周知を図る予定。
- ・薬剤師会・医師会・歯科医師会が合同で、禁煙に関する講演会を実施。
- ・職場の健康診断の実施強化月間として、集中的な周知・啓発を実施。

地域の中での効果的な事業展開について

- ・定期健康診断とがん検診とがセットで受けられる機会を設けている。
- ・歯科検診を含む妊婦歯科教室・歯科相談を実施。
- ・町ぐるみ健診を昨年は13回実施し、うち4回は歯の健診も実施。
- ・休日や夜間にも健康相談を実施するほか、参加率が低い場合は自治会等に出向き、家族も含めた啓発を実施。
- ・複数回受診勧奨を行うほか、受診者の自己負担額を団体が負担している。

<意見・提案、指摘事項等>

対象者への働きかけ方の工夫

- ・管理者からの働きかけ等、全社的な取り組みが必要。多方面から繰り返し勧奨することも効果的。
 - ・受診しない人は手当を下げ、たばこを吸わない人や肥満じゃない人の手当を上げる等のインセンティブを活用したらどうか。
 - ・かかりつけ歯科医を持っている人の割合は7割もあるのに、歯科医院に行かないのは何故かをつきつめると、受診率が上がるのでは。
 - ・法定の定期健康診断の実施率を把握し、労働基準監督署と連携して指導すれば、受診率が上がるのでは。
- 地域の中での効果的な事業展開について
- ・健康診断と歯科健診をセットにする等も必要。